

報 告

フクイハゴロモカギバラバチ *Orthogonalys fukuensis*
(ハチ目, カギバラバチ科) の原記載以来の再発見

加藤優羽・渡辺恭平

Yu Kato and Kyohei Watanabe: Rediscovery of *Orthogonalys fukuensis* (Hymenoptera, Trigonaliidae) since the original description

緒 言

ハゴロモカギバラバチ属 *Orthogonalys* は、ハチ目カギバラバチ科に属する寄生蜂の一群である。本属の日本産種は、ナガハゴロモカギバラバチ *O. elongata* Teranishi, 1929, フクイハゴロモカギバラバチ *O. fukuensis* Tsuneki, 1991, ハゴロモカギバラバチ *O. hagaromonis* Teranishi, 1929 の3種が知られている (渡辺・山根, 2020)。なお、ヒラハゴロモカギバラバチ *O. hirasana* Teranishi, 1929 は独立種とみなす見解 (Tang *et al.*, 2017) もあるが、本稿では渡辺・山根 (2020) に従い、ナガハゴロモカギバラバチの異名として扱う。

これらの種のうち、フクイハゴロモカギバラバチは、福井県赤兎山で1976年6月18日に得られたオス1個体の標本に基づき記載されたが (Tsuneki, 1991)、その後の採集記録が無い稀な種である。本種は、触角鞭節は黒色で、第13から15節にかけて明るい褐色帯を有すること、中体節は白色紋を欠くこと、後体節は赤褐色部を欠くこと、前翅の第1逆走脈 (1m-cu) は第2亜縁室 (2nd submarginal cell) につながるなどから、同属の他種と区別される (Tsuneki, 1991; Tang *et al.*, 2017; 渡辺・山根, 2017)。

筆者のうち加藤は、2022年5月4日に神奈川県湯河原町にて、3個体のハゴロモカギバラバチ属の一種のオスを採集した。得られた標本を筆者らで詳細に検討したところ、これらは全てフクイハゴロモカギバラバチと同定された。本稿では、原記載以降初めて採集された本種を、神奈川県からの初記録として報告するとともに、今回の標本から示唆される分類学的な問題点も指摘した。

材料と方法

本報告で用いた標本はいずれも神奈川県湯河原町吉浜の幕山 (標高約 626 m) で採集したものである。採集後、ハ

チ目の標本作成における一般的な方法で乾燥標本とした。写真はデジタルカメラ EOS 8000D (図1 A–D: キヤノン社, 東京) および TG-4 (図2: オリンパス社, 東京) で撮影した。図1は全て乾燥標本とする前に撮影し、図1 AとBは姿勢が異なるが同一個体である。形態用語は渡辺・山根 (2017) に従い、本報告で用いた標本は、全て神奈川県立生命の星・地球博物館の昆虫資料 (KPM-NK) に収蔵されている。

結果と考察

フクイハゴロモカギバラバチ
Orthogonalys fukuensis Tsuneki, 1991

(図1 A–D)

検視標本

KPM-NK 81097–81099, 3♂, 神奈川県湯河原町吉浜 幕山 625 m, 4. V. 2022, 加藤優羽採集。

備考

上記の個体はいずれも幕山山頂付近の登山道にて (図2), 木漏れ日が差し、明るく照らされた樹種不明の低木の葉上に、断続的に飛来した個体を得たものである。この低木は落葉樹と考えられるが、幼木のため同定不可能であった。採集時の天候は晴れで、午前11時頃から一時間程度の間で採集された。本採集例は、原記載以来情報がなかった本種の56年振り2例目の記録となる。

原記載 (Tsuneki, 1991) では、本種の標徴形質の一つとして前翅の第1逆走脈が第2亜縁室につながる点を挙げている。一方で神奈川県産の標本は、この第1逆走脈が第2亜縁室からは若干離れる個体から (図1C), 第2亜縁室からは完全に離れ、第1亜縁室 (1st submarginal cell) につながる個体 (図1D) までの変異が見られた。しかしながらその他の形質状態については、Tsuneki

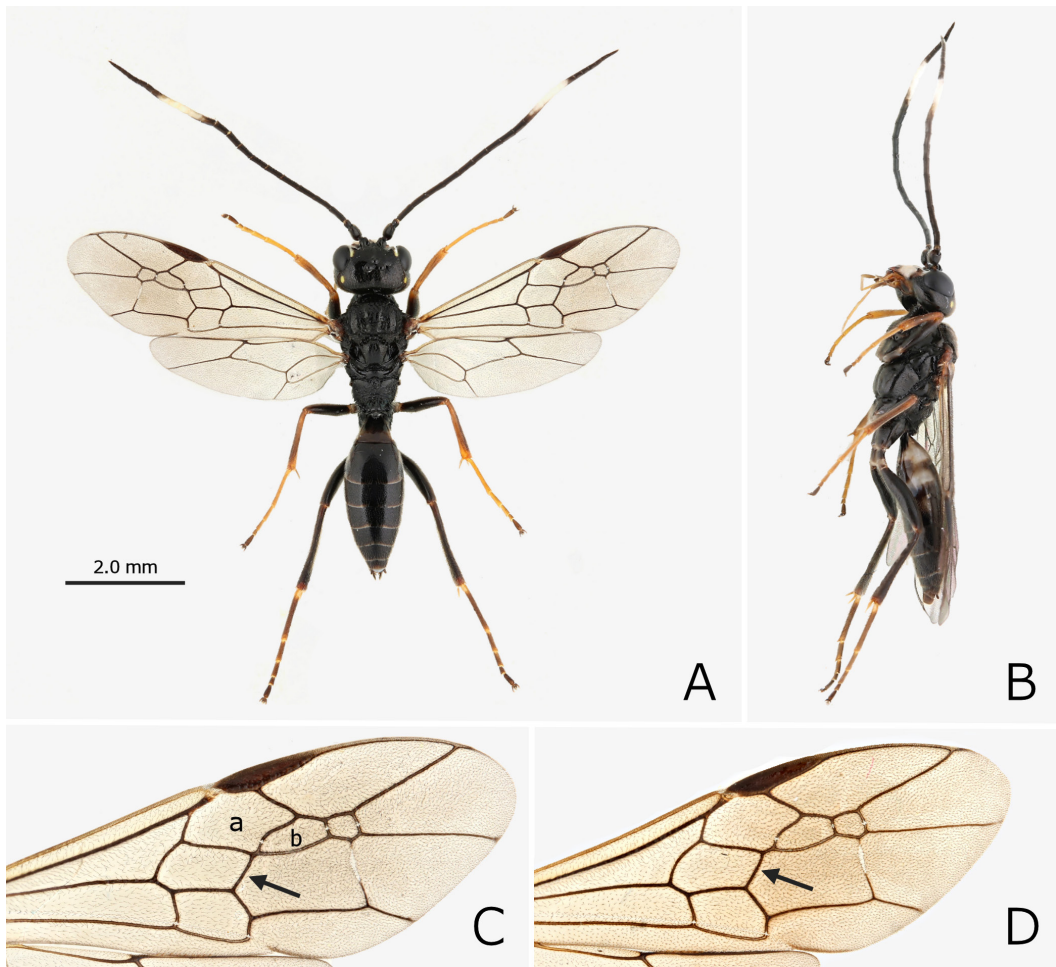


図1. フクイハゴロモガバラバチ (A-C: KPM-NK 81097; D: KPM-NK 81098) . A: 背面から見た全形; B: 側面; C, D: 前翅 (a: 第1 垂縁室; b: 第2 垂縁室; 矢印は第1 逆走脈を指す) .



図2. 本種を採集した周辺の環境 (2022年5月4日, 加藤優羽撮影) .

(1991) や渡辺・山根 (2017) による本種の記載と概ね一致した。このことから、今回採集した標本は全てフクイハゴロモカギバラバチと同定したが、前翅の第1逆走脈の位置には個体変異が見られるため、本種の標徴形質としては適さないことが示唆される。本種と近似種ナガハゴロモカギバラバチとの区別においては、この形質が色彩以外の唯一の区別点であったことから、今後両種の関係については多数の標本の集積による各種の種内変異の理解や、遺伝子解析による検討が必要であろう。

引用文献

Tan, J. L., C. van Achterberg, Q. Q. Tan & L. P. Zhao, 2017. New species of Trigonalyidae (Hymenoptera) from NW

China. *ZooKeys*, **698**: 17–58. DOI: <https://doi.org/10.3897/zookeys.698.13366>

Tsuneki, K., 1991. Revision of the Trigonaliidae of Japan and adjacent territories (Hymenoptera). *Special Publications Japan Hymenopterists Association*, (37): 1–68.

渡辺恭平・山根正気, 2017. 日本産カギバラバチ科についてのメモ. *つねきばち*, (30): 1–26.

渡辺恭平・山根正気, 2020. Family Trigonaliidae カギバラバチ科. 日本昆虫学会日本昆虫目録編集委員会編, 日本昆虫目録, 第9巻, 膜翅目 (第2部 細腰亜目寄生蜂類), pp. 191–193. 権歌書房, 福岡.

加藤優羽: 神奈川県立生命の星・地球博物館外来研究員;

渡辺恭平: 神奈川県立生命の星・地球博物館

(受領 2022 年 10 月 16 日; 受理 2023 年 1 月 24 日)